

台湾人の会話における一方進行のコードスイッチング 「感声的な語」・「語」によるコードスイッチング

陳 麗 君

要 旨

経過筆者一連串的調査分析後發現，雙語使用人在語碼轉換過程中，藉於雙語的不同程度的介入使用，會產生出各種形態的文體。其中最值的重視的是僅以單一方向來進行的，也就是在中文構造中使用台語「感嘆語」以及在台語構造中使用中文「詞」的語碼轉換。針對此現象，本論配合社會語言學以及功能語法的方法，通過中・日・台語的語意對照分析後歸納出二點結論。一是雙語轉換乃是由於雙語所擔當的「焦點(focus)」功能之不同，透過語碼轉換而將之有標化(marked)的結果。第二、這些有標化實踐了語篇的功能，特別是提升主題與新舊訊息分別表出的功能。台語有主題提升的功能及談話標識(discourse makers)的功能，而中文則作為主題以及各種新舊訊息的標識。

キーワード……一方進行のコードスイッチング 「感声的な語」・「語」のコードスイッチング 主題化機能

はじめに

コードスイッチングとは一つの談話の中で、ある言語から異なる言語へ切り替えることである。台湾人バイリンガルに対するこれまでの調査の結果、様々なコードスイッチングのスタイルが見られた。その中でも、もっとも注目すべきは進行方向が一方進行のコードスイッチングである。一方向で進行しているコードスイッチングは2言語が相互的にコードスイッチングすることなく、1つの言語からもう一つの言語へ一方的にコードスイッチングすることである。談話中のコードスイッチングは一つの有標(marked)標識であり、片方の言語がコードスイッチングすることによって有標化され、「特別」な働きを持つと考えられる。それが一方方向で進行することは、この有標化された片方の言語にしかみられない部分的な機能を「焦点化(focus)」することを示している。ゆえに、一方進行のコードスイッチングを考察することによって、それぞれのバイリンガリズムが果たしている「特別」な機能を見ることができる。

自然会話資料をもとに分析していくと、2種類の一方進行コードスイッチングが観察される。1つは中国語の基本構文から台湾語へ切り替える方向のみである「感声的な語」コードスイッチングである。もう1つは台湾語の基本構文に中国語を挿入することによる「語」コードスイッチングである¹⁾。これまでコードスイッチングの研究は、社会言語学や語用論の視点を中心

に、そのほとんどが西洋で行われてきており、バイリンガリズムに関する研究は日本では皆無に近い。そこで、本論で選択機能文法による対照的な考察を方法として、コードスイッチングによる2言語の機能的な分業を明らかにするものとしたい。これまで筆者は社会言語学の方法を通して、コードスイッチングに関わる要因を明らかにしてきた。本論文はコードスイッチングの方向性に注目し、具体的にこの2種類のコードスイッチングの共通の機能を見出そうとする新しい試みである。これにより、言語伝達におけるコードスイッチングの機能性と二言語の機能的な分業を解析する。

一、「感声的な語」によるコードスイッチング

台湾のバイリンガルに用いられる感声的な語は2言語にわたっており、単一言語使用より選択肢が豊富である。バイリンガルが用いる「感声的な語」のタイプに(1)中国語と台湾語とで同じ語形を持つもの、(2)台湾語にしかないもの、(3)中国語にしかないもの、(4)台湾語と中国語とで同じ意味で違う語形のもの、が考えられる。その中の(1)に関しては、中国語が台湾語かの区別が付かないため、対象外とする。さらに、今回の調査においては、ベースコードが台湾語である場合に「感声的な語」だけを中国語にコードスイッチングする現象は見られなかった。つまり、一方進行のコードスイッチングであるゆえ、今回の調査では(3)の中国語にしかないものは見られなかった。よって本論で扱うものは(2)台湾語にしかないもの、および(4)台湾語と中国語が同じ意味で異なった語形を持つものである。特に後者の場合に、なぜ中国語の類義語を持つものにも関わらず敢えてスイッチングをし、台湾語の「感声的な語」を使うのか、その実態と理由を追究したい。方法としては発話行為における語用的な機能およびテキスト形成機能に焦点を絞ることとする。「感声的な語」は理性的・客観的・内的・概念的な事実を述べる言葉とは異なる。インフォーマントが台湾語へコードスイッチングした「感声的な語」は、大まかに「感動詞」・「文末間投詞」・「文末語気詞」の3種類に分けられる。「感動詞」のうち、「感嘆」「応答」および「文末語気詞」は主に感情を表出するものである。一方、「感動詞」のうち、「つなぎ言葉」および「文末間投詞」は文法的・接続的な機能を果たすため、機能的に区別される。各回において台湾語へ切り替わる「感声的な語」を各回ごとに表1に示す。

表1 各面接時におけるコードスイッチングの回数

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 |
|-------------|------|------|------|------|------|
| 感動詞 (中→台) | 26 | 21 | 3 | 27 | 25 |
| 文末間投詞 (中→台) | 3 | 0 | 3 | 5 | 0 |
| 文末語気詞 (中→台) | 7 | 6 | 7 | 13 | 5 |
| 語 (台→中) | 0 | 4 | 12 | 41 | 84 |
| 中国語総数 | 1740 | 1425 | 1362 | 1343 | 1299 |
| 台湾語総数 | 84 | 102 | 168 | 748 | 1002 |

本研究では初対面の2人の人物に、面接調査を依頼し、5回計60分にわた

って5つの話題について会話してもらい、それを録音したものに基づいて解析した。話題によって大きく変化を見せたのは台湾語の「感動詞」へのコードスイッチングの例数である。各回

の例数は21~27例の間に安定していたのに対して、第3回目の面会においては3例しかなかった。その理由は話題との関わりだと考えられる。第3回目の面会で参与者に与えたのは「総統選挙について」といった改まった話題であった。それに対して、第1、第2、第4、第5回の話題はそれぞれ「自己紹介」「正月の過ごし方」「私の趣味」「無題」のように比較的、気楽に自由に会話できる話題である。というのも、面会回数は増すとともに、対象者間の親疎関係が変化する。中国語の使用は減少へ、台湾語は増加へと言語変化は見られた。「語」コードスイッチングにおいても同じ傾向があった。しかし、感動詞によるコードスイッチングはこのような傾向が見てとれなかった。このことから、「感動詞」の働きは、話者間の距離を調節するといった対人的なものというよりも、話者自身の感情をありのままに表出するものだと言える。なお、原文及び日本語訳ともに、台湾語の部分にイタリック体、中国語を標準体で示すことにする。また、談話記録に用いた記号は以下の通りである。

「」: 話が途中で終わる 「・・・」: 談話の部分を省略 「:::」: 音の延長
 「」: ゼロ記号 「」: 極端な声調

1 感動詞

感動詞は内容によって、「感嘆などの感情を表出するもの」、「応答」、発話の意志を表す「つなぎ言葉」の3種類に分けることができる。「感嘆などの感情を表出するもの」に対して「応答」と「つなぎ言葉」はもっぱら聞き手に対する働きかけや反応として用いられるものである。さらに、「つなぎ言葉」の文法的・接続的な機能が「感嘆などの感情を表出するもの」と「応答」には見られない。

1.1 感嘆などの感情を表出するもの

感嘆の気持ちや感情や意志などの話し手自身の感情の表出に用いられる感動詞である。この類では「oo」しか見られなく、今回の調査において中国語構文にこの類の台湾語の感動詞が入った文は3例であった。もっとあるように思われるが、この類では台湾語と中国語との語形は同じものが多く、ほとんど判定不能である。また、この類は聞き手がない状況で個人的な発話としても使えるものである。

(1) A: oo, 我太忙了。(oo, おれは忙しいんだ。)(第1回)

(2) B: oo, 在職班會比較。(oo, 社会人コースのほうが)(第2回)

1.2 応答

前項は、もっぱら話者自身の感情を表すものであるのに対して、応答には対自的と対他的なものがある。応答には機能的な働きによって自己確認、対人の応答およびあいづち(back channel)の3種がある。自己確認とは、話し手がある話材についてまとめた発話をしたあとに、それに関する自己の発話に対する内省と発話を終わりにするためのものである。自己確認の機能的な使用は、補充情報がない限り発言権の移譲を示し、自分の発話した内容を確認しながら

話者交代(turn-taking)の標識となる。日本語でもこれと似た機能のものが見られる。話し手は自分の発話の結尾に「そうですね」を添えることによって自分の発話情報を確認しながら、交代を促す機能を持つことがある。一方、対人の応答はもっと一般的に認識されているものであり、聞き手の質問文に対する応答である。そして、あいづちは会話を円滑に進めるために不可欠なものであり、特に相手に自分の態度および進行中の会話への協力意志を示すのに機能する。

1.2.1 自己確認

中国語構文中に台湾語の感動詞である「自我確認」の使用は「*heⁿ*」が3例、「*heⁿ a*」は1例が見られた。

(3) B: *e*, 我姓郭, 孟修。我是, 名孟修。住鹽水。家住鹽水。那現在是 目前是在那個麻豆, 麻豆念書。麻豆那個真理大學。念資訊管理系 這樣。*heⁿ*。*a* 那本身晚上是有在兼教吉它 這樣。ok。(ええと、僕は郭と申します、孟修です。僕の名前は孟修です。「鹽水」に住んでいます。家は「鹽水」です。現在はあの「麻豆」で勉強しています。「麻豆」の真理大学です。情報管理科です。そうですね。あの、自分は夜にバイトでギターを教えています。OK。)(第1回)

(4) B: 有夜間部。有夜間部。*heⁿ*。(夜間部がある。夜間部がある。そうですね。)(第1回)

(5) B: *heⁿ*, 那我們學校就有分兩季 嘛。一個是春季班, 一個是秋季班。*heⁿ*。(そうですね。うちの学校は2期を分けていますね。一つは春コース、一つは秋コースです。そうですね。)(第1回)

これらの例に見られるように台湾語の感動詞である「*heⁿ*」は、ある話材に関する発話の完了を示している。(3)はある話材を終える標識として「*heⁿ*」を用いており、その後には他の補充情報があるために、もう一度感動詞(つなぎ言葉)を用いて補充情報を述べている。なお補充情報に関する詳細は次節で述べる。

(6) A: *a* 關子嶺 我都沒興趣去了!(4秒)(あの関子嶺温泉さえに興味がないからね)

A: *heⁿ a*! (そうですね)(第4回)

Aは発話した後に4秒間経っても、聞き手の反応がなかったため、「*heⁿ a*」を用いて、先行した自分の発話を確認しながら、さらに話者交代を催促している。

1.2.2 対人的な応答

ここでは、yes-no 疑問文に対する応答である。台湾語に切り替える応答は「*heⁿ*」×4、「*ee*」×1、「*heⁿ a*」×1があった。

(7) A: 就 這樣子 喔!?(これだけか?)(第1回)

B: *heⁿ* (はい。)

(8) B: 6圈 啊! ((マージャンを)六回よ。)(第2回)

A: 一次 喔?(連続で?)

B: *heⁿ*, 6圈。*e*↑。(ええ、六回。あれ ?)

(9) B: *ee*, 對對對。A 然後 之後 去 台南 學 一年。(第4回)

(ええ、そうそう。あのその後には台南市に行って1年間(ギター)を勉強した。)

1.2.3 あいづち(語にならない音声を含める)

あいづちを打つことによって、相手の話を興味津々な態度で聞いているという合図を送る。中国語構文を用いている際に、台湾語に切り替えるあいづちは「hooⁿ」×5、「hoo」×3、「oo」×6、「ooh」×1、「heⁿ」×3、「hum(n)」×8、「hem」×1、「heⁿa」×2があった。これらは単独で用いられ、繰り返して用いられる。特に2、3回の繰り返しがよく見られた。繰り返して使うことによって、相手の話への興味や賛同をより強く示すことになる。

(10) A: hooⁿ hooⁿ 可是 現在 學校 越 來 越 多 了!

(ええ、ええ、しかし今学校(数)が段々多くなってきました。)(第1回)

(11) B: 那 你 要 下 很 多 的 苦 心 啊! (そうしたら沢山の工夫が必要だね。)

A: ooh。(はい。)(第1回)

(12) B: 還 好 啦。你 們 都 打 多 大 的?

(いいじゃないか。あなた達はいくら(の掛け金)でやってるの?)

A: 我 們 打 : 一 百 五 十 的。(私達は:(掛け金)百五十元のをやったの)

B: oo hoo hoo一様 啊!(ええ、はーはー、同じだね。)(第2回)

1.3 発話の意志を表すもの一つなぎ言葉

発話の意志を表すつなぎ言葉は、ほとんどが「a」であり、「ei」が数例あった。中国語の「(啊)a」は感嘆などの感情を表出する感動詞や文末語気詞として働くのに対して、台湾語の「a」は接続機能の誘発あるいは整調機能として用いられ、台湾語への切替は文法上の結束性(grammatical cohesion)を示している。他の言語においても、類似した機能のものが存在する。日本語では「あの」、英語では、「well」は代表的なものである。ここではつなぎ言葉としてテキスト形成的機能が見られ、特に「a」の後ろに主語・主題が来るという特徴があり、対照的なトピックの機能が強められる。さらに「a」には、会話の進行において大概二つの機能が見て取れる。a) 新たな話題が導入される時、しばしばその発言を有標化する機能(「a」「ei」)。b) フィードバック(feedback)の機能(「a」)。橋内(1988)によれば、「私たちは話が順調に運んでいるかどうかを常にチェックしながら、会話の場に臨んでいるのである。・・・」聞いて確かめるというフィードバックを行っているのは聞き手だけではない。話し手自身もそれで良いものか、と検討しながら話を進めていっているのである。発話の最中に「あの」「ええと」とか「hem」や「well」といったフィーラ(fillers)を挟めて口ごもったり、前言を撤回すべく言い直したりして発言を自ら修正するのである。このような機能を踏まえながら観察すると、「a」には以下のような使用が見られる。

1.3.1 発話意志標識

発話意志標識とは相手の注意を誘い、ある話題が始まる、あるいは発話を続けたり、話題を転換するための標識である。この類のつなぎ言葉「a」は、働きによって3種類に分けられる。そ

れぞれは A) 談話の進行している話について、新しい展開や話題の転換を示す、B) 進行中の話題について、その連続的な展開を催促しようとする、C) 思い付いたものを話題にし、始まる標識として相手の注意を誘う。

A) 談話の進行している話について、新しい展開や話題の転換を示す。

「a」を用いることによって、聞き手に続けて発話をする意志を示す。そのために「a」の後ろに主題、特に代名詞を主題化する傾向が見られる。今回の調査では「a」+代名詞が最も多かった。代名詞の本質的な機能について、時枝(1950)は代名詞の本質を「話し手を基準にした関係概念」の表現にあるとしている。即ち、代名詞と言われている語はすべて話し手との関係を規定し表現するところに特色がある。本論では時枝における「話し手との関係概念」を踏まえて、「a」と連携する代名詞を考察する。つなぎ言葉の現れる形式としては、「a」+代名詞以外に、「a」+副詞、「a」+中国語の接続副詞との二重操作、その他があった。すべての形式において、「a」は後ろに来るものを主題として取り立てる効果が見られた。

「a」+代名詞

代名詞には実の代名詞と虚の代名詞が存在する。前者は話し手に対する聞き手、あるいは第三者である実在の人物を指す代名詞である。後者は、話し手と対立している側を捉える関係概念であり、即ち話し手自身以外の他者を指し、この場合は「你(あなた)」を用いる。この用法は日本語の「自称・対称・他称」体系には見られないもので、話題の人物や物事(非人)を指示するのに、「他称」ではなく、対称の「あなた」を用いる。このような代名詞の用い方は話し手との関係概念から派生してきたものと考えられる。話し手との相対的な関係を指示していることから「二人称代名詞」と区別して「相対代名詞」と呼ぶ。

「a」+人称代名詞

(13) A: 真理大學 喔! a 你 資訊系 讀 幾 年級 的?

(真理大学か、であなたは情報科の何年生?)(第1回)

(14) A: 對! 對! 有些 東西 譬如 你 要 設計 成 3D 你 要 畫 一個 3D 出來, 可能 會 花費 你 一些 時間。a 他 可能 就 沒有 辦法 兼顧。(そうそう。あるものは例えば 3D を設計して作り出すために、結構時間がかかる。すると(仕事と勉強を両方)こなすことが出来ないかもしれない。)(第1回)

話し手はこのような仕事では時間がかかり、社会人コースには厳しい状態であることを述べ、「a」を用いることによって話題を転換して、前の社会人コースに関する話題に戻って話を続ける。

(15) A: a 我們 現在 講話 是 五年後, 那 四年前 你 的 觀點 又是 怎麼樣? (第3回)

(あの私達が今話しているこの時点を5年後と例え、4年前のあなたの考え方はどうなの?)

例(13)(15)における「a」はある話題を始める標識として用いられる。

「a」+相対代名詞

相対代名詞「你(あなた)」は聞き手を指すのではなく、他方という意味合いとして使われ

ている。漢語系では1人称の「我」に対して、「彼」が対立概念、漠然とした対象としてを指すことができる。その場合は、「你(あなた)」は目の前の聞き手を指示するのではなく、語意を持たずに、文の流れを保つ機能を果たす。

(16)A: ..就像 美國 的 南北戰爭,人家 是 承認 你們 是 自己 的 人 在 打架 *ne, a* 你 國民黨 打輸了 退到 臺灣 那是 你 已經 輸了 啊。大陸 已經 百分之 90, 百分之 95 的 土地 被 人家 拿走了 啊。..。(..アメリカの南北戦争みたいに、世界中に(国民党と中国共産党と)内戦だと思われたんだよ。そして 国民党が戦争に敗れて台湾に退いたことは負けることだ。大陸の土地はもう 90%、95%が取られてしまったんだ。..)(第3回)

(17)B: *he'* 備份 他 就 不會 進去。 *a* 你 就 侵入 到 你 主機 嘛! (そう、(ウィルスは)バックアップには入らない。あの あなたの(パソコンの)ハードディスクに侵入するだろう。)(第5回)

「a」+時間副詞

これらの中国語の副詞は名詞の働きをする副詞であり、時間や場所を示す、台湾語「a」によって主題化される。

(18)B: *a* 現在,一局 十塊,五塊。現在 變 這樣 *ne*, 很 便宜 *ne*。真的 啊! (で今は、(ボーリングの)一ゲーム 10元、5元。今はこうなってるんだ。とてもやすいんだ。本当に!)(第4回)

(19)B: *he shiu'* 麻煩 啊! 那個 會 常常 出錯 啦! *a* 今天 如果 有 一套 系統 來 管理 他 裡面 資料 的 話, *an ne jook* 方便 *e*。(あれ(手書きで資料を作ること)は面倒だ。間違えやすいしさ。それで 今日、もしそれらの資料を管理できるシステムがあれば、とても便利なんだけど。)(第5回)

(20)A: *a* 關子嶺 我 都 沒 興趣 去 了! (あの「関子嶺温泉」さえ(私は)行く興味がない!)

二重操作(台湾語接続詞「a」+中国語接続詞)

節においては、台湾語は先行した会話と接続するためのテキスト的機能を果たし、中国語は条件・仮設・逆接などの意味割りを担っている。

(21)A: ..因爲 兩年 覺得 有一點 長, 在 當 的 時後 有一點 長, *a* 突然 做到 一年十個月 就 退伍 了。..。(..2年間は長いと思ったけど、(兵役を)やっているときにちょっと長いと感じた、で一瞬にして1年10ヶ月間が経って除役になった、..)(第1回)

(22)A: ..*a* 就 先 做 一個, 他 以後 要 做的 更好 的 話, 他 再 慢慢 去 做 嘛! (..まあ取りあえず、先に(ホームページを)作っちゃえば、あとになってもっといいのを欲しいときにその時にまた自分でゆっくりやればいいのさ。)

その他

(23)A: ..譬如講 C 槽 *kui e* 去 *hoo* 破壞 掉, *goa* 用 光碟 或是 軟槽 *lue* 開機。 *a* 開完機 之後 我 進到 DOS 裡面 就 可以 拉 出來。(..たとえばCドライブ全体が破壊されたとしても、私はCDあるいはフロッピーを使って起動する。それで、(パソコンが)起動ができれば私はDOS上でデータを呼び出すことが出来る。)

台湾人の会話における単一進行方向コードスイッチング(陳)

「a」の用法として、これから何かを言おうとするところだということを示すものである。そのために、「a」の後ろに来るものは主題として取り立てられた現象が見て取れる。

B) 進行中の話題について、その連続的な展開を催促する

この用法の「a」は5例であった。

(24) B: a 像 那個 做官的 le? (で、官僚は?)(第4回)

(25) B: a 現在 可能 就- a 現在 le? (で、いまはもしかすると それで今は?)(同上)

(26) B: 沒有 沒有、去 外婆 家。(いやいや、婆ちゃんの家に行った。)(第2回)

A: 外婆、a 有 沒有 領 到 紅包(笑)? (お婆ちゃん、でお年玉もらった?(笑))

C) 思い付いたものを話題にし、始まる標識として、相手の注意を誘う発話

思い付いたものを話題にする標識は「ei」が5例であった。

(27) A: ei、那 你們 進去 還 要不要 重新 學 英文 na 國文 na? (そういえば、あなた達が(大学に)入ったときに英語とか国語とか(の授業)があった?)(第1回)

(28) B: (5秒沈黙) ei、元宵節 你 有 沒有 去 鹽水 看 蜂炮?

(あの、「元宵節」に「鹽水」に蜂花火を見に行っただ?)(第2回)

(29) A: ei、那 今年 過年的 時候 你們 沒有 去 拜訪 親戚 喔?

(あれ、じゃ今年の正月に親戚訪問してなかったか?)(第2回)

1.3.2 思考をまとめる

一時休止(pause)の直前か直後に、次に何を言おうかと考える時間を稼ぐか、言ったばかりのことを別の表現で言い換えるために用いられる。思考をまとめる標識としては「e::」「ei」「a」があった。

(30) B: e::、我 姓 郭、孟修。(ええと、私は 郭孟修と申します。)(第1回)

(31) A: 這邊 是 一個 廠、我們 公司 總共有 2、3 個 廠、ei、總共有 5、6 個 單位 啦!(こっち(中の)が一つの工場、うちの会社は全部で2つ、3つの工場がある。ええと全部で5、6部門(機関)があるね。)(第1回)

(32) A: a、我 我 以前 學生時代 最 喜歡 打 籃球 跟 排球。(あの、私は昔学生時代にバスケットボールとバレーボールが大好きだった。)(第4回)

1.3.3 付加情報

先行文の内容の続きとして付加情報を発話する。「a」を用いることによって、発話を続けたいということを知らせる。また、観念構成機能の理論的機能では、節と節や文と文の関係が並立(paratactic)関係あるいは従属(hypotactic)関係にある。それに触れながら付加情報としての節を検討していく。なお、「a」によって、「a」の後ろの名詞、時間副詞などを主題化する働きも見られた。

「a」+代名詞・名詞

(33) A: 然後、有 蠻 多 人的、都 趕 在 初二 或 初三 就 回 到 工作崗位。- a 我們 公司 是 初六

上班。(並立関係)(そして、多くの人が正月の二日や三日に急いで仕事場に戻ろうとしていた。…で、うちの会社は六日から始まる。)(第2回)

(34)A: 女人・choo:人 hooⁿ・沒有・像 伊 an ne choo:gina 人 hooⁿ・若 le 談 戀愛 hooⁿ 是 分 時段…。
A 女人・女孩子 在 轉變 都 很 恐怖…。(從属関係)(女、婦人、いやあ彼女みたいな女の人はね、恋をするのにね、段階によって違う。…。そして女は、女の子が転換する時期ではすごく怖いんだ。…)(第4回)

「a」+時間副詞

(35)A: 對 啊，我 都 已 經 在 工 作 了。結 果 他 們 還 給 我 紅 包 害 我 很 不 好 意 思。不 過，還 是 都 收 下 來 啊！去 年 是 大 豐 收 的 一 年。A 今 年 就 沒 有 了 - (並立関係)(そうだね、おれはもう働いているのに。彼らがまだお年玉をくれて、本当に恥ずかしい。といっても(お年玉は)全部もらっちゃったよ。去年は大豊作だった。けど今年はない。)(第2回)

(36)A: …很多 改革 一定 都 是 循 序 漸 進 的。然 後 爆 發 出 來 的 改 革 就 是 激 進 的，就 一 定 會 有 損 失。不 是 流 血 就 是 有 人 糟 殃。A 現 在 兩 方 面 都 不 想 打 仗 的 話 那 就 是 看 以 後 誰 能 想 出 比 較 好 的 方 式 去 協 議 出 來 啊。(從属関係)(…多くの改革はゆっくりと進められてきたんだ。しかし一旦爆発した革命は急進的で、必ず損害を与える。血を流したり、災いを招く。けど現在は両方(中国と台湾)とも戦争をしたくないから、将来、誰かがいい方法を思いついて問題を解決するだろう。)(第3回)

二重操作(台湾語接続詞「a」+中国語接続詞)

(37)A: 技術學院 就 沒 差。A 如 果 你 是 普 通 的 商 學 院 啦，一 些 什 麼 - (並立関係)(技術専門学校なら(学歴は)関係ない。でー普通の経済学院であれば、なにか)(第1回)
台湾語の「a」は前節と繋がる文法的な接続の機能を果たし、後に来る中国語の「如果」は仮設条件の仮説を表す接続詞であり、「もしも」の意味でもある。

(38)B: ee, 對 對 對。a 然 後 之 後 去 台 南 學 一 年。(從属関係)

(ええ、そうそう。でその後、台南市に行って1年間(ギター)を習った。)(第4回)

台湾語同様、中国語の「然後」は「そして」の意味を表す。この2つのほかには、台湾語の「a」に「じゃない」との意味を表す中国語の逆接条件などの接続詞もあった。

その他

(39)A: …然後 過 年 的 時 候 休 太 多 天 結 果 就 有 些 網 站 他 故 障 進 不 去…。A 有 的 就 會 關 掉。(並立関係)(…そして正月休みが大変長かったので Web サイトが故障して入れなかった。…あるいは休業しているものもあった。)(第2回)
動詞「有(ある)」は「的(の)」によって、名詞化された。さらに「の」によって主題化された。

(40)B: 沒 有 啦！打 打 電 腦 啦，a 做 一 些 作 業 啊，學 點 東 西 這 樣 子…。(並立関係)(別に！パソコンを弄ったり、そして宿題をやったり、勉強をちょっとするぐらい。…)(第2回)

(41) A: 要騎摩托車, ㄍ 摩托車 進去 又 怕 著火。(從屬關係)(バイクで(花火祭りに)行かなくちゃ、しかバイクで行ったら火を付けられそう。)(第2回)

以上、つなぎ言葉としての台湾語の「a」の用法は対応する中国語がないために、台湾語に切り替える例文が多かった。あいづちや思い付いたことや「ei」「ee」など思考をまとめるときに用いられる談話標識(discourse makers)は中国語にもあるため、他の用法と比べても例文が少なくなっていた。もっとも多く使われている「a」に見られる機能は、文の流れを緊密にする接続的な文法的な機能および「a」の後ろに来る主題に成れる要素を取り立てる機能がある。

2 文末間投詞

日本語の間投助詞は文中、いわゆる節の終わりに、あるいは文末の最後に置かれ、かなり自由に用いられる助詞である。ここでは台湾語の文末間投詞を文中、付属節と節との間に使われているものと定義し、具体的な聞き手の存在を前提として、その聞き手に向けて用いられる助詞であるとする。また、曹(1979)によれば、中国語の間投助詞(文中語気詞)は話題と同一文における他の成分とを分けることが出来、しかもこの現象は話題と主語とが異なるものを示す場合の一つの特徴である。中国語構文から台湾語に切り替える文末間投詞は「hooⁿ」×8、「hoo^l」×1、「na」×2が観察された。「hooⁿ」と「hoo^l」は同じ類であると思われる、文中における位置がもっとも自由であり、各種の主題成分の後に置くことが出来る。「na」は往々にして新しい話題に転換することを示す。もっとも多く使われると予想された「a」例の数が比較的になかったのは、中国語の「啊 a」と同じ語形であるゆえに、区別が付かないためである。現在中国語の口語で用いられる文中語気詞は文末語気詞から変化してきたものであると言われている。その種類は会話に見られた台湾語のものよりも多く、「啊」「吧」「呢」「嗎」「啦」などがある。

2.1 文末間投詞の前に位置し、文頭に用いられる成分の種類

1. 文末間投詞の前の成分は文の主語であると同時に、話題でもある。

(42) A: … Outlook 2000 版的 hooⁿ, 你 還 可以 設定 一些 排程 na。(第4回)

(… Outlook2000 バージョンのはㄍ、プログラムなどを設定することが出来るよ。)

(43) B: 可以 自己 看 書 啦! 這種 東西 hooⁿ, 入門 的話 可以 自己 看 書 啦! …

(自分で本で勉強するのよ。こんなものはㄍ、入門なら自分で本で勉強出来るよ。)(第4回)

2. 文末間投詞の前の成分は文の話題である。

(44) A: … 我們 現在 人事 hooⁿ, 現在 已經 改 了 名稱 了。

(… うちの今の会社の人事はㄍ、今はもう名前を変えた。)(第1回)

(45) A: 對! 你 裡面 有 一個 相撲 選手, 你 比較 有 一點 名氣 hooⁿ, 那一個 家 就 叫 望 族。應該 就 叫 名門。…(そう。家族の中に一人相撲取りがいて、そこそこ人氣があればㄍ、その家族を良家と言う。つまり名門という。…)(第4回)

3. 文末間投詞の前の成分が話題であり、主語ではない。

(46)A:我跟你講 na,我跟你講一句話啦,你 可能對 很多 事情 都 沒有-。有些 條約定 下去 hoqⁿ,可以 用 一百年 兩百年。(教 えてお きますよ か,一 つだけ 言 っ てお きますよ。あなた は 多 くの 事 を あ ま り に (知 ら ない),ある 取 り 決 め を 結 ん だ ら ne,百 年 も 二 百 年 も 使 う こ と が 可 能 だ。)(第 3 回)

4. 文末間投詞の前の成分は副詞や接続詞などのテキスト形成機能の句である。

(47)A:・・嘉南樂專 很多 票 都 是 陳水扁。然 候 他 們 都 是 台 大 的,在 上 課 的 時 候 會 給 我 們 這 一 方 面 的 資 訊。可 是 hoqⁿ,當 然 我 也 是 會 分 析 啊!・・(「嘉南樂專(Aの母校名)」では多 くの 人 が 陳水扁 を 応 援 して いる。そ して、そ の 大 体 が 台 湾 大 学 の (先 生) 授 業 中、私 達 に こ の 方 面 の 情 報 を く れ る。し かし ne,勿 論 私 に も 分 析 は 可 能 だ。・・)(第 3 回)

(48)A:以 前 hoqⁿ,都 不 會 去 跑 像 飯 店 消 費 比 較 高 的。・・

(昔 は ne,ホ テ ル の よ う な 値 段 の 高 い と ころ に は 行 け な け っ た。・・)(第 4 回)

これらの文末間投詞の意味的な機能としては、1) 語句の切れ目において、相手に念を押すこと、2) 主題を取り立てることがあげられる。

中国語の「啊」と「吧」などの文中語気詞との使用は以上に挙げた台湾語の文末間投詞とおよそ差異は見られない。しかし、方梅(1994)によれば、中国語には文中語気詞の位置が重要情報と副次情報の分界線という機能が観察されている。特にダイアローグ(dialogue)の場合は常に「位置移動」という形で現れる。挙げた例としては

快出去吧 你!(早く出て行きなさいよ 君。)

几点呀 现在!(何時だい いま。)

このような例は「位置移動」による文末詞的な使用であり、主題を後ろに移動することによって情報度を変化させ、聞き手に対する命令や軽い苛立ちの叙法でもある。しかし、この使用は台湾語の文末語気詞には見られない。また現代の中国語口語に用いられる文中語気詞はその全てが文末語気詞から変化してきたものと言われている。そのため、語気詞の側面が強くと感じられる。したがって、中国語の文中語気詞に対して、台湾語の文末間投詞は文末詞(文末語気詞)としての働きがそれほどなく、その流れを保つテキスト的な機能を持ち、对人的に緩やかな語気として文末を落ち着かせることを重視するという側面を特徴としている。

3 文末語気詞

文末語気詞とは文末にきてかつ語気を表すものである。中国語にも文末語気詞に似た働きをする「語気詞」があるにも関わらず、敢えて台湾語に切り替えている例が多く見られた。この節では、意味的に中国語と日本語と台湾語の「文末詞」を対照しながら、検討していく。

1. 列挙したものの陳述、あるいは選択疑問文

並列や列挙項の後ろに用いられる文末語気詞は「na」が見られた。相当する中国語は「啊」であり、日本語は「トカ」である。

台湾人の会話における単一進行方向コードスイッチング(陳)

(49) A: *ei* 那 你們 進去 還 要不要 重新 學 英文 *na* 國文 *na* ? (第1回)

(あのあなた達が(大学に)入った時に英語とか国語とかをもう一回やる?)

(50) A: 錢 *na*↑, 女人 *na*↑, 車子 啦。(第5回)(お金とか、女とか、車とか)

2. 疑問を表す

中国語の疑問を表す語気詞に関しては諸説があるが、基本的には疑問詞として挙げたものを全て列挙すると「嗎 *ma*」「呢 *ne*」「吧 *ba*」「啊 *a*」の4つとなる。その中で台湾語と共通している語形は「啊 *a*」である。今回の調査では、疑問文においては中国語構文から台湾語の文末語気詞に切り替えていたのは、「oo」×1、「na」×2、「le」×4、「hooⁿ」×1、「a」×1であった。

(51) A: 就 跳 過去 了 *oo*。(国語・英語が)無くなっちゃったの?(第1回)

(52) B: (mh)那 你 是 在 哪 一 個 部 門 *a*? (あなたはどの部門にいるの?)

この例は、中国語の語気詞「啊」の用法ではないために、台湾語と判断した。

(53) B: *a* 像 那個 做 官 的 *le*? (であの役人のほうは?) (第4回)

(54) A: … 產品 要 上去, 應該 很快 嘛 *hooⁿ*? (第5回)

(…製品を載せようとするなら、すぐですよ?)

例(51)は平述文に疑問詞「oo」につけることによって疑問詞となり、語意的には日本語の「カ」、中国語の「嗎」と近い。例(52)では「a」「na」は語気詞である、日本語の「ノ?」、中国語の「呢」に近い表現である。例(53)では「le」は疑問詞であり、日本語の「ワ?」が疑問詞相当の意味を表し、中国語の「呢」の用法とかなり一致する。例(54)は確認を要求する疑問詞であり、日本語の「デショウ」、中国語の語気詞「吧」に相当する。

3. 自分の感情、意見を表現する

話し手の感情や意見などの内省を表出する語気詞として、「le」×1、「na」×3が見られた。それに当たる日本語は「~カナ」「~ヨ」「~ナ」、中国語は「呢」「呀」などが挙げられる。

(55) A: 上 六 日 我 才 覺 得 不 太 舒 服 *le*。(土日に(授業を)受けるほうが私には気分悪いな。)(第1回)

(56) B: 很 難 *na*! 倒 了, 快 要 倒 了。…(難しいな! 潰れた、もうすぐ潰れそうた。…)

(57) A: (笑) 真的 會 改 變 *na*! (本当に変わるのよ)(第4回)

4. 語気を和らげ、不確定な意

中国語構文で台湾語に切り替えた語気を和らげる「ne」は1例しか見られなかった。これは日本語の「ネ」、中国語の「呢」に相当する。

(58) 話者 B: 聽說 好像 也 沒 有 了 *ne*。

((軍事訓練の授業も)無くなったそうだね。)

5. 相手に念を押し、確認および強調の意を表す

文末詞切替として、相手に念を押し、述べる命題の事実性を強調する台湾語の「ne」×12が観察された。これは台湾語に切り替えた文末語気詞の中では最も多く見られた。日本語の「~

ノヨ」「～ダヨ」と対応している。相当する中国語は見当たらない。

(58) A: 志遠學院 啊! 真理大學 ne! 不一樣, 文憑 出來 是 不一樣。(「志遠學院」だろう、「真理大學」だよ。違うさ、出した学歴は違うんだ。)(第1回)

(59) B: a 現在, 一局 十塊, 五塊。現在 變 這樣 ne, 很 便宜 ne。・・(で近頃は, (ボーリング) 1 ゲーム 10 元, 5 元程度。近頃はこうなってね, すごく安くなったんだよ。・・)(第4回)

6. 完了あるいは説明を表す

完了の説明を表す台湾語に切り替えた語気詞は「a」×2、「na」×5 であった。相当する日本語は「～タノヨ」「～ノダヨ」であり、相当する中国語は「啊」などである。

(60) B: 每一年 哦? 你 在 生達 多久? (毎年か? 「生達」(会社名)にどのぐらいいた?)

A: 對, 兩年 na。(そうね、2年間だっだよ。)(第2回)

(61) A: 你- 你 設定 啊! 譬如說 我 家 那一個 帳號, a 我 去 公司 有 設定 那一個 帳號 啊! 兩邊 都 可以 看 na! ((君が) 設定すれば! 例えば、僕の家のパスワードを、あの、会社についても同じパスワードを設定するんだ。(そうすれば) どちらでも(メールが) みられるんだよ。)(第4回)

二、「語」コードスイッチング

一つの文の中に異なる言語の単語が挿入されるという現象を「語」コードスイッチングと呼ぶ。この場合、挿入された語や群が一つの情報単位となるものであり、ほとんどの場合は名詞である。さらに、これらの言葉はその言語の基底的構造に何も影響を与えず、自然に入り込んでいく。一方方向で進行するコードスイッチングである「語」コードスイッチングは、台湾語構文に中国語を挿入することが見られたが、その逆は見られなかった。ここでは、「語」コードスイッチングを台湾語の同義語がないものとあるものに分けて考察する。

1 同義語がない「語」

第2回の語においては、「年終獎金(年末ボーナス)」の台湾語がなかった。

第3回では、「語」コードスイッチングの語数は5語、述べ12回であった。台湾語に同義語がないのは他人の言葉の引用「十八般武芸」「十八套辦法」と固有名詞「兩國論」と心理名詞「心態(心理状態、意識)」×2と「標準程序(標準プログラム)」の5語であった。

第4回におけるコードスイッチングの語数は31語、延べ41回であった。台湾語に同義語がない語数は15語である。それぞれは物質名詞×1 吉他(ギター)、一般名詞×2(民歌手(民謡歌手)・學長(先輩))、名詞×4(球禁(ピリヤード禁令)・單音(シンプル音)・夢想(夢)・棒球(野球))、形容詞×3(粗曠(ワイルド)・靜態(大人しげ)・簡要(簡潔))、とコンピューター用語×5(上網聊天(チャット)・收件夾(受信箱)・密碼(パスワード)・區域網路(ラン)・5.01版(5.01バージョン))であった。

台湾人の会話における単一進行方向コードスイッチング(陳)

第5回におけるコードスイッチングの中国語の語数は48語、述べ84回であった。(英語の述べ語数は6語、述べ16回。)台湾語に同義語がないものの語数は25語で、擬声語1語を除いた全てがパソコン関係用語であった。英語の場合もすべてパソコン用語であった。台湾語の同義語がないものを以下に列挙する。

物質概念名詞：程式(プログラム)×3, 程式語言(プログラム言語), 網頁(ホームページ)×2, 子目錄(インデクス)×2, 一頁式(一画面), 網站×3(ホームページの会社), 郵購×3(通信販売), 帳號(カード番号), 資料庫(データベース)×4, 病毒(ウィルス), 備份區(バックアップ用ハードディスク), 備份(バックアップしたデータ), 中毒(ウィルスに感染した), 位置(IP)×3, 當机(クラッシュ)×3, 架構(構造)

人間活動：架站(サーバーを立ち上げる)×9, 建檔(フォルダ作成), 電子商務(パソコン通販), 職掌(職)

道具名詞：主机(パソコン本体)×1, C槽(Cドライブ)×2, D槽(Dドライブ)

英語：DOS×2, IP×2, hinet, T1×7, E-mail×2, Windows×2

直接表現名詞(話し手の主観の情意を、概念化せずそのまま表現している): 圈圈叉叉(文句を言う様子の擬声語)

固有名詞：蕃薯藤(ハンショウトウ(ポータルサイトの名前))

以上に見られたように、中国語に対応する台湾語が無いものは、ほとんどは近年に見られる新しい用語、とくにパソコン用語である。このような「語」の切替は「借用(borrow)」である。しかし問題にすべきは、なぜ対応しているものがあるのに、わざとコードスイッチングするのかということである。台湾語の同義語のある中国語の「語」を見てみよう。

2 同義語がある「語」:

表現形式²:

カテゴリ：類別)中国語単語(日本語訳語)×数量

第2回:

人間活動の主体：相手・仲間)同事(同僚)×2

時間副詞：去年(去年)

第3回:

抽象的關係：統一)統一

人間活動(精神及び行為): 交渉)談判, 騒ぎ)抗議(デモ)

數量詞：幾海里(何海里), 一百海里(百海里)

第4回:

抽象的關係：興き)興趣(興味)×2, 改新)開放(改正), 等級・系列)水準(レベル), 時代)國中時代(中学校時代)×2, 學生時代(学生時代)

人間活動の主体：專門的・技術的職業)学生, 公私)個人, 神社・学校)補習班(塾), 社區

運動（地域施設）

人間活動：教科書・古典・集・新聞雑誌）譜（楽譜）、基礎（基礎）、性情）白痴（白痴）、文化・歴史・風俗）流行（流行）、スポーツ）撞球（ビリヤード）×2、國民所得（國民所得）

生産物及び用具物品：吉他（ギター）、軍艦（軍艦）

場所名詞：臺灣（台湾）、基隆外海（基隆外海）、大陸（大陸）

第5回：

抽象的關係：新旧・遅速）遅到（遅刻）、保存）維護（メンテナンス）×2、能力）能力、本体）資料（データ）×2・基本資料（個人データ）、存在）普遍（普遍）、一般）大体、空間・場所）住址（住所）×3、出現）出去（ホームページに出す）

人間活動の主体：長）工業局長（工業局長）、友・なじみ）同學（クラスメート）、公共機関）郵局（郵便局）×2、事務所・市場・駅など）銀行（銀行）×2

人間活動：説明）説明（説明）、仕事）兼差（兼業）・行政（事務）、価額・費用）價錢（値段）、練り・塗り・打ち）發射（電波を発信すること）、設備）照明（照明）×3、産業・生産）企業（企業）×2、業）工業（工業）

生産物及び用具物品：產品（商品）×4、型號（型番）

以上の中国語は台湾語発音で読めるものや対応する同義語があるものである。しかし、頼れる辞書がなく、5人の母語話者に判断してもらった。その結果、実に個人によって大きく異なるものがある。それは、単音（シンプル音）、國民所得（國民所得）、幾海里（何海里）、一百海里（百海里）、型號（型番）、工業局長（工業局長）、吉他（ギター）などである。これは、中国語から借用して、台湾語で発音して使う意欲があるかどうか、使い慣れているかどうかという意識や習慣レベルの問題であると思われる。

上に列挙したように、台湾語があるにもかかわらず敢えて中国語に切り替えるものも多い単語は「人間活動」のカテゴリであった。その次は「抽象的關係」のカテゴリであり、それから「人間活動の主体」であった。特に「人間活動」および「抽象的關係」の単語は時間軸に沿って飛躍的に量が増加し、最終回においては「抽象的關係」の増加が特に目立つ。この現象から、相手との「親疎關係」が不定の状態におけるバイリンガルが、台湾語構文で伝達するとき、「人間活動」や「抽象的關係」や「人間活動の主体」の意味範疇の部分了中国語に切り替える傾向があると考えられる。また、これらの類義語がある「語」をコードスイッチングすることは、話し手の主観的な使用および伝達能力など関わっていると考えられる。ここでは、文脈や機能などによって語の選択を纏る要因を考察する。その機能については、以下の通りだと考えられる。単語に下線を付けたものは台湾語に同義語がある中国語である。

1. 単語コードの首尾一貫性：

a) 先行した中国語構文で一旦用いられた単語を、あとに来る台湾語構文にもそのまま用いる方が、混乱を招かない：

台湾人の会話における単一進行方向コードスイッチング(陳)

人間活動:

A: ……像 *jin* 前啊, 人 *le* - 人家在流行保齡球啊。 *nan ma* 對人 *le* 流行。(……例えば前にはね、人がみんながボーリングブームにはまっていたよね。うちらも人の流行について行く。)

b)相手の使った単語をそのまま用いる:

抽象的關係:

B: ……幾乎 每天 遲到。(……(ほぼ毎日遅刻してる。))

A: 你是 *an juá e* 遲到? (どうして遅刻するんだ?)

2. 中心語として機能する:

抽象的關係:

A: 不過, *goa ha* 重視人跟人。其實我覺得 *goa e* 興趣 *to* 是 跟人跟人的 接觸。

(しかし、俺はもっと人間と人間を重視している。自分が思うには俺の趣味はつまり人間と人間との触れ合いなんだね。)

抽象的關係・生産物及び用具物品・人間活動:

A: ……因爲 *jima* 網業 就 *jook* 普遍 *e*, 看 咱 產品 什味貨 *be khi li* 咱 *lai te e* 說明 *a* ……(……今のホームページはとても普遍化しているんだ、どんな商品(ホームページ)に載せたいのかを決めて会社の(商品に対する)説明しないとあ……)

3. 重要情報である印:

人間活動の主体:

A: ……伊 *he* 只是 個人 *e nia'*, 沒法度 變作 一個 區域網路。(……あのあれ(ソフト)はただ個人用に適用するだけで、管理ソフトにすることは出来ない。)

人間活動・抽象的關係:

A: *Nan jima* 國民所得 *ap* 沒 到 *hele* 水準。

(私たちの国民所得は一定のレベルまで達してないんだ。)

4. 主題機能を担う:

特殊地位を有する主題は「これからXについて述べる」という意味の役割を持ち、選択されたものである。旧情報であるにも関わらず、情報伝達するために重要な役割を果たしている。

人間活動の主体である主題:

A: 國中時代 *he* 是 因爲 *goan hit* 陣 有 球禁 ……

(中学校の時は、あれは俺達の時にビリヤードを禁じる校則があったから……)

主題は旧情報ではあるが、会話における話材が転々と変わるときに、話題のコードをスイッチすることで目印を付ける。

抽象的關係である主題:

B: 住址 一定 *ai khong li* 資料庫 *lai te e*。

(住所は必ずデータベースの中に入力しておかなくちゃいけないんだ。)

以上の全ての機能的使用を含めて、コードスイッチングとは相手との社会的関係を維持するために行った現象であろう。これまで、研究してきたように台湾語を用いることで、お互いの距離を短縮させる機能を捉えてきた。特に中国語を多く使っている若年層にとってはこの現象が明らかであった。一方、普段ほとんど台湾語を用いているお年上にとっては、敢えて所々に中国語の単語を用いることによって、年下や目下と円滑な関係を保つといった現象もしばしば見られる。この場合、Aは会社員でちょっと年上であり、Bは学生である。社会的な立場や権力関係が少し異なっている。したがって、Aが台湾語の積極的な使用を見せたものの、ある程度の中国語の使用により、Bとの社会的な関係を保とうとする意図も見取れる。完全台湾語構文の使用に代わって、中国語の単語を用いたミックスコードを使用することによって、相手とは同年代であり、距離感を無くすといった効果がみてとれた。その一方、中国語の発話による部分を否認不可の雰囲気や漂わせ、権力関係を示すことが考えられる。

終わりに

以上、一方進行のコードスイッチングを考察した結果、2点の結論が得られた。一つはコードスイッチングが起きるのは一方の言葉に欠陥あるいは足りないことがあり、それを補うためにコードスイッチングを起こしたのではないということである。中国語構文から台湾語への感声的な語の切り替えと、台湾語構文に中国語の単語を挿入することが一方通行になる理由は、両言語の果たされている機能的な働きが異なるためである。大まかに言うと、台湾語は感情的な部分に用いられ、中国語は情報的な事柄に用いられる傾向がある。さらに細かく見ると「感声的な語」における台湾語の感動詞や文末間投詞などは談話標識を担い、同時に対人関係の機能とテキストの結束性(cohesion)も働いている。また、進行中の会話に台湾語のつなぎ言葉を挿入することによって話題転換や話者交代などが観察された。一方、中国語に「語」コードスイッチングの場合、調査結果に見られたように、もっとも多くあったのは「人間関係」と「抽象的な関係」というカテゴリーの中国語の単語であった。しかし、今回の調査結果に見られたように、これらの単語には対照としている台湾語があるため、台湾語が発達の遅れた抽象的な思考を表すことの出来ない言葉という認識は間違いである。さらに、台湾語に類義語のない借用を見てみると、ほとんどが物質名詞や道具名詞である。これらの用語は英語など他の言語から借用する例も見られた。むしろ、台湾語における借用は漢字の訳語に拘束されることなく、中国語よりは自由に借用できるという利点があると言える。にもかかわらず、コードスイッチングを行うことにより言語の伝達機能の多元化と明朗化を実現している。

2点目は、「感声的な語」「語」コードスイッチングはともに、特に主題化 - 主題を取り立てること、および新情報 - 中心語を目立たせるといったテキスト形成機能を果たしているということである。「感声的な語」コードスイッチングでは、台湾語の文末間投詞の前方にある中国語

台湾人の会話における単一進行方向コードスイッチング(陳)

句、台湾語の言葉によって後ろに来る(この場合は中国語)中国語の主語成分を主題として取りたてていた。また、本文で述べたように「人間活動の主体である主題」「抽象的關係である主題」といった特殊地位を有する主題としての「語」コードスイッチングが観察された。つまり、台湾語はそのような中国語主体を主題化する役目があり、中国語の主体は台湾語によって主題とされる役目がある。したがって、「感声的な語」と「語」コードスイッチングとの進行方向が異なるものの、「中国語」を主題化する働きが共通している。さらに、「語」コードスイッチングは台湾語構文に挿入する位置によって、新情報になることもある。その位置とは被修飾語となる「中心語」の位置である。よって、コードスイッチングはテキスト形成および情報の伝達するための「焦点(focus)」化の機能を披露し、これによって言語の性格や特徴を反映しているのであろう。

今回は一方方向コードスイッチングを考察することによって、バイリンガリズムにおける二言語のそれぞれの分業を初歩的に考察した。その結果、言語伝達的手段としてコードスイッチングは機能的であった。このことを受け、今後は文内切替(intra-sentential)を対象とし、選択機能文法と談話分析へと考察を広げることによって、コードスイッチングにおける二言語の機能的分業を解明することが期待される。

<注>

- 1) 日本言語学会第122回大会の報告(陳麗君(2001)「親疎關係とコードスイッチング」)に載せた結果である。時間軸と親疎關係に沿ってコードスイッチングの文体が変化する。「疎の關係」である参加者が初回の面接にもっとも多く行うのは感動詞や文末間投詞・語気助詞のようなモダリティを表すものである。最終的にもっとも多くなっているのは「語」コードスイッチングであった。
- 2) これらの単語は国立国語研究所編(1964)『分類語彙表』秀英出版を参考して分類したものである。

<参考文献>

鈴木一彦・林巨樹編(1972)『品詞別日本文法講座 名詞・代名詞』 明治書院。

時枝誠記(1962)『国語学原論』 岩波書店。

時枝誠記(1950)『日本文法口語編』 岩波書店。

橋内武(1988)「会話のしくみを探る」『日本語学』第7巻第三号 明治書院 pp.43~51。

橋内武(1999)『ディスコース』 くろしお出版。

山崎良幸(1965)『日本語の文法機能に関する体系的研究』 風間書房。

方梅(1994)「北京話句中语气词的功能研究」『中国語文』第二期 商務印書館。

Halliday, M.A.K. (1994) *An introduction to Functional Grammar*. (2nd Edition). London: Arnold.

Tsao, Feng-Fu, 曹(1979) *A Functional study of Topic in Chinese: The First Step towards Discourse Analysis*. Taipei:

Student Book Co.